

## グラスゴー大学訪問記-福澤三八

比治山大学現代文化学部教授

貝嶋 崇

平成 22 年 2 月 23 日広島空港より、エジンバラに向かった。旅の目的は、夏目漱石が作成したとされる 1901 年のグラスゴー大学の入学試験問題となった日本語試験の実物を発見することにあった。これまではあまり知られてはいなかったが、最近の漱石関係の書物ではよく言及されるようになった。しかし夏目漱石の試験問題について、実際にその作成によって大学から受け取った給与等は明示されている。したがってきっとその試験問題もグラスゴー大学のアーカイブにまだ残してあるのではないかという期待を持って、成田を離れて中継地のドゴール空港からエール・フランスの機上の人となったのである。

その飛行機の機体は比較的小さなもので、風の影響を受けやすいものだった。上昇や下降を繰り返すたびごとに体が浮き上がり、比較的大きな国際便の機体になれていたわたしは、以前にプロペラ機に乗ったときの体験を思い出していた。本来飛行機は風の方向や風力に大きな影響を受けるものだが、大きなジェット機にばかり乗っていると、飛行機と風とは関係なく思い通りに進むものだと錯覚をしていた自分に気づかされた。われわれは自分の周りのものになじんでくると、次第にそれが当然だと錯覚するのだろう。その結果なじんでいない異文化に対して、驚いたり嫌悪感を抱いたりあこがれを抱いたりするのだ。

むろん 1900 年前後の日本からの留学生がいかなる錯覚を自国文化に抱いていたかはわからないけれども、少なくとも現代の日本人に比べて彼らが見聞きしたものは、自分たちのものと全く異なっておりそのたびに大きな驚きを覚えたのであろう。ただし問題点は、彼らが文明には進んだ方と遅れた方があるとする単純な考え方でその違いを理解していたことだ。そしてその進んだ方に疑念も抱かずにただ追いつこうと努めたのである。その際に彼らが基準として比べていたのが自国の文化であり、それは先に述べた錯覚の上に創られた文化だったのではなかろうか。

エジンバラに到着して宿に入ると、日本スコットランド協会のティム・スチュワードさんが宿のロビーまでわざわざ面会にやってきてくれた。その場でスチュワードさんにグラスゴー大学のアーカイブを紹介していただいたお礼を述べた。スチュワードさんは身長 180 センチくらいの穏和な紳士で、退職後日本スコットランド協会を手伝っており、その日も奨学生の面接をしてその足で、直接おいでになった。奨学金で日本へ行くことを希望している学生の面接をしてきたのだそう。その時に話は弾んで、ご自分でウィスキーの醸造をしているということなどを伺った。

夏目漱石など当時の日本から文明の進んだスコットランドへと留学生が一方的に出かける時代からすれば、今はスコットランドから日本に留学する学生も現れる時代になっている。いまか

らわたしが調査研究を始めようとしている明治期にスコットランドに渡った留学生が生きていてこれを聞いたとすれば、彼らはこの事実をどのように受け止めただろうか。

さてスチュワートさんの紹介でまず知己を得たのが、グラスゴー大学におつとめの戸田有信さんである。彼のおかげでグラスゴー大学のアーカイブ部門に直接行くことができた。さらには大学の上級古文書管理官の Rankin Moira さんがわざわざ当時その建物は改修中であるにもかかわらず、わたしのために待っていてくれてアーカイブの一室を用意してくれた。その部屋にはインターネットにも繋がるコンピュータまで備え付けてあった。またわたしのためばかりではないだろうが、一人専門の職員をつけてくれてその方の親切的な協力のおかげでグラスゴー大学のアーカイブに眠っているグラスゴー大学の日本人の全リストを手に入れたわけである。

そのリストの中で特に興味をひいたのが福澤三八という留学生である。彼の名がなぜ興味をひいたのかというと、彼が福澤諭吉の三男であるということだけではなく、彼の名前が大学理事会の議事録にも、また当時の大学書記官の手書きの原稿にも再三登場しているからである。三八は当時入学試験で受ける外国語科目に日本語の導入を要求した初めての日本人だからである。当時ヨーロッパの留学生はフランス語、ドイツ語などの自国の言語で語学試験を受けることができたが、日本人には英語の試験が課せられていた。それを三八は不平等として、単身学部長に抗議をしていたのである。それも理路整然と。父親の福澤諭吉がそうした不平等を嫌っていたこともあり、息子の三八はその精神を受け継ぎ決然と抗議をしたのである。

結果日本語試験が日本人留学生に対して実施されることになり、その試験問題作成者としていろいろな経緯を経て夏目漱石に白羽の矢が立った。その間の事情は加藤正治の「グラスゴー大学の試験問題作成者夏目漱石」という英文の論文にその詳細が書かれている。

モイラさんからいただいた私の手にした貴重な資料は、三八の入学時の入学簿（そこでは父の諭吉の職業がエディターとなっている）、またその他の1880年から1915年までの入学者リスト、それぞれが学習した教科などが書かれていた。さらには福澤三八の成績のコピーまで入手できた。

インターネットは便利な文明の利器であるが、一方で昨今犯罪でも悪用されると耳にする。しかしこのインターネットのメール通信によって、こうした研究用の資料収集に快く協力してくれる知人を得ることができた。こうした方々の親切を無にしないためにも、本来はこの機会を借りて発表したいのであるが、この研究書には頁の制限があるためにそれは無理となった。しかしその資料は違う形で発表予定である。とても有意義なグラスゴーへの旅だった。今年広島では本格的に寒い冬が増えた。雪まじりの寒風に吹かれるとグラスゴーを訪れた当時を思い出す。グラスゴーやエジンバラなどスコットランドの外気温はとても寒く雪もちらついていた。みぞれまじりの雨の街頭を傘もささずに歩きながら、そこに暮らす人々のとても暖かい人情に触れたことを感謝とともに記しておきたい。